

第		13		回					
住	民	の	自	治	・	統	治	研	究
会	ご		あ		ん		な		い

-現地研究会-

萩之茶屋第6町会長・サポーターズハウス「おはな」

代表西口宗宏さんに、西成区萩之茶屋の地域活動をたずねる

と き:2012年10月27日(土)午後2時から4時

ところ:サポーターズハウス「おはな」、西成区萩之茶屋 2-8-8、06-6647-7978

***集合時刻と場所:13時45分、南海電車「新今宮」改札口集合(駅中央2階)。**

参加締切日:10月15日(月)までに、研究会事務局 佃 まで(参加数を事前連絡します)

今回は、日本の貧困の縮図といわれる大阪市西成区萩之茶屋で地域活動に取り組んでいる西口さんにお話を伺います。【西口さんへの質問項目は添付の取材依頼状を参照してください。】

前回 9.29 研究会の報告

◆「地域自治組織と地域福祉」- 報告 栗本裕見 (当研究会代表)

1. なぜ地域自治組織化か
 - ①平成の市町村合併を契機に、防災・防犯・福祉などの住民による(小規模)公共サービス生産への期待。②ゆえに、地域の支え合い活動によるサービス生産に地域自治組織の関わり方を調査する必要がある。③伊賀市・恵那市・高浜市・宮崎市の行政、市社協・地域自治組織等を調査。
2. 地域自治組織の取組み
 - 1)自治体の共通する傾向⇒「〇〇まつり」のようなイベントへの支出、福祉では講演会や啓発的なもの、補助金を使いきれないという声がある。
 - 2)地域自治組織と福祉的な取組み⇒①福祉施設の運営、②制度外サービスの提供、③地域内団体の取組み支援、④住民やサービスのネットワーク化、⑤個別ケースの情報共有の場。但し、地域自治組織という規模の利益を活用したサービス生産に結びついていない。
3. 社協の取組みと地域自治組織
 - 1)地域自治組織以前から社協が進めてきた地域組織の設立(地区社協等)と、地域自治組織の間の整理は進んでいない。また、市社協による働き掛けはほとんど見られない。
 - 2)要因⇒①地域自治組織自体が地域に十分定着していない中で、社協が福祉的取組みの挺入れの必要性を感じていない。②社協のボランティアなどを中心とした取組みスタイルと自治会・町内会中心の地域自治組織の活動スタイルの相違など。4点の指摘。
4. 地域内の縦割りから自律的サービス生産へ
 - 1)地域内の縦割り⇒①補助金などの制度的制約、②団体間の情報共有の促進不足、③地域内イニシアチブを巡る紛争など6点の指摘。
 - 2)成功の要因⇒①課題設定の成功=共通の危機感の共有、地域協議会の課題設定機能の重視。②地域活動の重複を整理など4点の指摘。

【議論とまとめ】

- ①成功事例の条件として、共通の地域的条件や危機感の共有など、過去のしがらみのなさ、階層の類似性などの同質性の要因が挙げられるが、逆に、異質な条件による住民自治の政治的なものの可能性が問われてくるのではないか。
- ②団体間の制度的なものや歴史形成の相違が地域内の縦割りとして指摘されたが、地区社協などの最近の傾向として、団体型活動から特定の優れたリーダーによる個人結集型、ネットワーク型に変化している。

報告の指摘にも見られるように、リスクの個別化と普遍化、例えば高齢化は普遍的な現象だが、障害の現れは個別的である。そのもとで、地域課題として何を、どのように練り上げていくのか問われている。

当研究会は自主研究会ですので、参加者には資料代1回=500円の負担の協力をお願いしています。

主催=住民の自治・統治研究会 (06-6354-7220)